

# 令和5年度予算編成方針

## 令和5年度予算編成に向けて

摂津市長 森山 一正

新型コロナウイルス感染症については、これまでワクチン接種も進み、行動制限も緩和されつつあるが、現在の第7波は新規陽性者数・死亡者数ともに過去最多となるなど、依然として予断を許さない状況にある。加えて、ロシアのウクライナ侵攻を背景とした世界的な物価高騰により、市民生活や地域経済に深刻な影響を及ぼすことが懸念される。

この難局を乗り越えるために、引き続き、未曾有の危機にあることを強く認識し、感染症対策や物価高騰対策をはじめとする市民の安心・安全な暮らしを実現する取組みを積極的に展開していかなければならない。

特に、2年半以上の長きにわたり続いてきたコロナ禍での制約は、人々の意識や行動に影響を及ぼし、社会は「新たな日常」へと転換しようとしている。この「新たな日常」は、デジタルトランスフォーメーションや働き方改革などを通して、真に豊かで便利な暮らしを実現する好機であるとともに、対策を怠れば、人と人とのつながりがますます薄れゆくことにもなりかねない危険性も抱えている。

本市では、「摂津市行政経営戦略」を推進し、「みんなが育む つながりのまち 摂津」の実現に努めてきたところであるが、つながりがこのまちの発展の原動力であることを改めて認識し、多種多様なつながりを創る取組みを重点的に進めていくこととする。

また、本年7月に完成した「鳥飼まちづくりグランドデザイン」は、人口減少時代においても本市の魅力を高め、持続可能なまちづくりを実現する上で重要な方針を示すものであり、その具現化に向けた取組みを進めていくこととする。

令和5年度においては、これまで継続して掲げてきた「こども」、「健康」、「安全・安心」の3つの重点テーマとする取組みを更に積み重ねていくとともに、この難局においてもオール摂津で立ち向かい、本市の着実な成長につなげていく予算とする。